生態園観察マップ　＊＊行ってみよう見つけてみよう＊＊　新緑編

＊セイヨウタンポポ

季節のできごと

・生態園に春の草花、樹木の花がたくさん咲いています。

白い花：ハルジョオン、シロツメクサ、カラタチ、ムクノキ、ネズミモチ

桃色の花：カラスノエンドウ、ヤマザクラ

赤 紫 の花：ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、アオキ

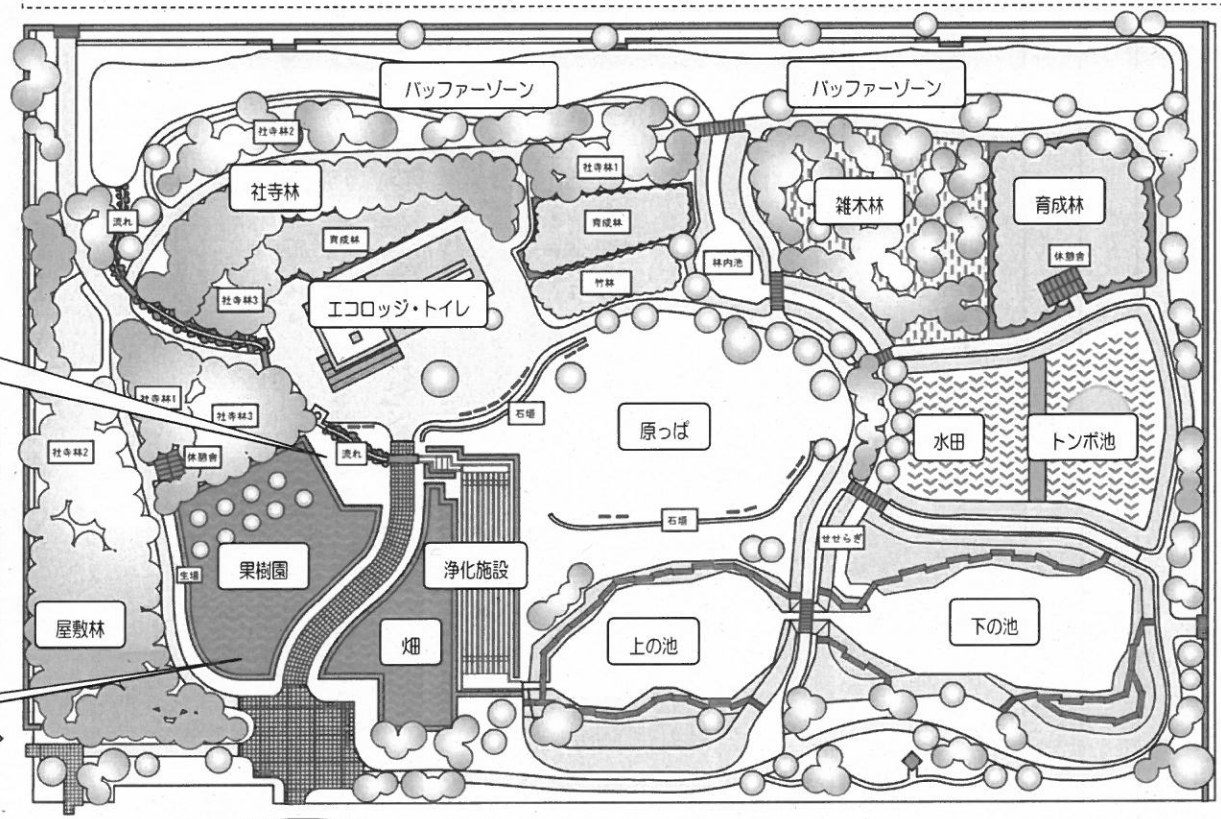
黄色い花：セイヨウタンポポ、ハルノノゲシ、ジシバリ、カタバミ

青色・青 紫 の花：オオイヌノフグリ、ムラサキサギゴケ、フジ

＊ツバメ

カラタチ
◎トゲに注意

ヤマザクラ



出入口

展望室

アオキ

＊モンキチョウ

＊印は、裏に説明があります。
読んで参考にしてみて下さい。

＊ 黄色い花 ＊

春は黄色の花が目立ちます。人の目には黄色に見える色に昆虫の目が反応しやすいからです。昆虫に花粉を運んでもらうことで受粉する虫媒花の花は、色や形、香りや蜜で昆虫を誘います。人には見えない紫外線が昆虫には暗く見えるため、花びらのつけ根に向かってだんだんと色が濃くなり、中心に蜜があることを教えるのです。(蜜標、ネクターガイド)

◇ 春の黄色い花の見分け方や特徴 ◇

総苞片

◇セイヨウタンポポ:外来種。茎と花の接続部分(総苞片)が反り返っている。受粉しなくても種子を作ることができ、2～11月頃まで咲いている。

◇カントウタンポポ:在来種。虫媒花。総苞片が反り返っていない。(右上図)春にのみ開花する。

◇ハルノノゲシ:草丈が 50～100 ㎝ と背が高い。葉がトゲトゲしているが、触っても痛くない。大型で触って痛いのはオニノゲシ。

◇ジシバリ:別名イワニナガ。細い茎が地面を這う。花の中心に雄しべの黒い葯が多く目立つ。花が大きいのはオオジシバリ。(左上写真)

◇ニガナ:茎や葉に苦みがある。通常花びら(舌状花)は 5枚。8枚以上はハナニガナ。

◇ブタナ:別名タンポポモドキ。茎が 50 ㎝ 以上になり、枝分かれする。花茎に葉がつかない。

◇カタバミ:花と葉が昼間開いて夕方閉じる。(就眠活動)ハート形の 3枚の小葉がつく。

＊ モンキチョウ ＊

春先に見られる黄色い蝶はモンキチョウかキチョウです。モンキチョウはその名のとおり、前翅の外縁に黒い紋、後翅の中央に黄白色の円紋があります。オスはすべて黄色ですが、メスは黄色型と白型がいます。キチョウは黄色が濃く、翅の全体に細かい斑点があります。

モンキチョウは幼虫も成虫もマメ科の植物を食草とします。生態園にはモンキチョウが大好きなマメ科の植物、クローバー、シロツメクサなどがたくさんあります。

なお、モンシロチョウとは分類が異なります。モンシロチョウの幼虫はアブラナ科のキャベツなどを食草とします。

＊ ツバメ ＊

チュビチュビチュビチュルルルルビーと早口でさえずります。ツバメは時速約200 ㎞ の高速で飛行でき、餌を獲ったり、食べたり、水浴びなど生活のほとんどを飛びながら行うことができます。

頭から背中は光沢のある濃紺で、額と喉が赤く、白い腹面の胸に濃紺の帯状斑があります。外側の尾羽が特に長い燕尾で、これらの特徴から蝶ネクタイに燕尾服のイラストに描かれているのを目にしたことあるのではないでしょうか。

ツバメは、桜の花が散る頃に南方よりやって繁殖し、秋に南方へ飛び去ります。このような鳥を夏鳥といい、他にはオオルリ、ホトトギス、カッコウなどがいます。

ツバメは人が生活している環境(民家や商店の軒先など)に巣をつくります。まわりに人がいることで、卵やひながハシブトガラスに襲われる危険が少なくなり、より安全に子育てできるためといわれています。古くから商家ではツバメの巣は商売繁盛の印とされ、巣だった後も巣をそのまま残しておく家も多いようです。また、農村部は穀物を荒らす害虫を食べてくれる益鳥として大切にされました。

生態園マップ

2020 新緑編